

化学物質過敏症について

化学物質過敏症とは、ある程度の化学物質が体内に取り込まれ、体がいったん過敏性を獲得すると、その後、ごく微量の化学物質に対しても反応を示し、様々な症状が現れることをいいます。発症の仕組みについては未解明な部分があり、治療法も確立されていないため、原因不明の体調不良に苦しんでいる方がいます。

発生源・経路

- 洗剤、柔軟剤、芳香剤、消臭剤、化粧品、殺虫剤など
- 建材、家具、接着剤、塗料など
- 排気ガス、暖房等の燃料ガス



症状

頭痛、吐き気、めまい、のどの痛み、せき、どうき、息切れ、湿疹、目がチカチカするなど、アレルギー反応やぜん息を誘発するなど様々な症状があります。



どうしたらいいの？

治療法が確立していないため、原因となる化学物質を避けることが最も有効な対処法とされています。

- 安易な使用を避ける
- 新たな発生源を加えない
- 部屋の用途や利用状況に応じて換気する
- 化学物質が揮発しない(少ない)ものと交換する
- 発生源を除去する



子どもへの影響

子どもへの化学物質の影響は、物をつかんで口に入れる習慣や大人よりも体重あたりの呼吸量と飲食量が多いことから、大人への影響より大きいと考えられています。



香害って知っていますか？

香料(香水、芳香剤、香りの強い柔軟剤、洗濯用洗剤など)や消臭剤(消臭スプレー、制汗剤など)に敏感に反応し、頭痛、吐き気、めまいなどの症状が現れる方がいます。公共の場など人が集まる場所では、香りが過度にならないように使用を控えるなど、ご理解とご配慮をお願いします。

